



意欲的に語る堀部社長

実行することが大事!

株式会社フクタカ 取締役社長 堀部 雅志さん

8月23日付けで、株式会社フクタカの取締役社長に就任された堀部雅志さん。以前は商社マンとして自動車や電機、プレス部品メーカーに材料を納入、その後、前職でプレス会社の社長を8年間務めており、長い間、鉄と付き合ってきました。

社員への期待を語ってくれました。また、「できない、仕方ない、無理とは言わない。」「分かっている、知っているだけでなく実行することが大事。」と力強く述べていました。

勝山市の印象を聞くと、「空気が、水、お酒がおいしく、魚も新鮮。古い史跡があり、文化も脈々と続いている。これは財産であり、外にアピールすることで活性化される。」そして、「市内散策も楽しみである。」とのことでした。

これからのビジネ社会で生きていくための心情として、「社員には、自分のために、次に家族のために、そして会社のために働いてほしい。」と自論を展開されました。

出会いふれあい 仲間 GROUP



講師の石川さん（手前）と一緒に

講師の石川雅夫さんは、「染めの色を覚えるには3年ぐらいはかかります。デザイン的には今後も試行錯誤を続けるしかありませんが、皆さんは染めにだんだん慣れてきていて、これからの楽しみですね。」と話されました。

(財)奥越地域地場産業振興センターでは、毎月2回講師を招いて、手染め事業「手染めの会」を開催しています。



媒染液での色止め（色の決定）の様子

楽しく染めています!

手染めの会



防災フォーラムを開催

ワークショップの状況

8月25日（月）教育会館において、福井県防災士会とタイアップして勝山地区を対象とした防災フォーラムを開催しました。「地域を守る―災害時要援護者―」をテーマに、福井県防災士会 荒木俊幸会長のプレゼンテーションのあと、各地区から参加した区長、民生委員、自衛消防隊員など総勢54人による地震災害や水害、雪害を想定した班別のワークショップを行いました。



市長に大会の結果を報告する山口茜さん、勝山北部中学校バドミントン部の皆さん

全国トップクラスのバドミントン勢

今年の夏も、バドミントンの全国大会で勝山勢が優秀な成績を収めました。熊本県八代市で行われた第9回全国小学生ABC大会では、平泉寺小学校5年生の山口茜さんがAグループ（5、6年生）で優勝しました。山口さんは1年生の時から同大会に出場し、3年生の時に準優勝だったものの、その他は全て優勝。今回で4度の栄冠となりました。

また、福井市で開催された第38回全国中学校バドミントン大会では、勝山北部中学校が、団体の部で準優勝を飾りました。地元応援団の支援を背に、前回大会での3位を上回る成績を収め、チーム一丸となった結果に確かな手応えをつかんでいました。個人戦でも男子シングルの勝見亮さん、ダブルスの中村周平さん・横井悠真さんペアが共に8強入りし、全国を相手に勝山のバドミントンレベルの高さを証明しました。

WRO Japan 決勝大会

8月31日、神奈川県横浜市のパシフィコ横浜にて、WRO（ワールド・ロボット・オリンピック）の国内の決勝大会が開催されました。



勝山市からは、福井地区予選会を勝ち抜いた、成器西小チーム（小学生の部）、勝山南部中チーム（中学生の部）、勝山北部中チーム（中学生の部）の3チームが出場し、どのチームも特訓の成果を発揮、ベストを尽くしました。その結果、中学生の部2校のチームが11月1日、2日に同じ会場で開催される国際大会に出場することになりました。国際大会は、約25の国や地域から選抜された強豪チームばかりの出場となるため、大変レベルの高い大会となりそうです。

また、11月3日には、恐竜博物館でエキシビジョン大会が行われます。ぜひ、応援に来てください。

西脇呉石の世界

勝山城博物館で、7月14日から8月31日まで、勝山が生んだ天才書道家「西脇呉石氏」の作品と遺品の展示が行われ、全国から多くのかたがたが訪れました。

「昭和最後の文人」と称される西脇呉石氏は、明治12年に当時の勝山町で生まれました。幼い頃から書の才能が認められる中で研鑽を積み重ね、大正6年には、文部省から書き方手本乙種（教科書）の揮毫を委嘱されるまでになりました。昭和45年に91歳でその生涯を閉じますが、戦後、書道界の重鎮として全国の書道の普及発展に努めた功績は計り知れないものがあります。

展示会に訪れた大阪の書道会のかたからは、「大変感激しました。」との感想が聞かれました。



作品に足を止めて見入る書道会の皆さん